

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
笑顔あふれる 元気な子	重点目標 「とことん好きを 楽しもう」	体を動かすことを楽しみ、自分もやってみよう と挑戦している	保育者も一緒に体を動かして遊ぶことにより、子どもたちがまねて楽しむ姿があ る。また体を動かせる環境が整ってきてるため、挑戦しようとする姿が増えてき ている。	A A60% B40%	A	小学校でも、伝えるということは勉強面 でも生活面でも力を入れているところ。年齢 にあった関わり方をしてきていることは ありがたいこと。まずは、自分のことを伝 えることが第一段階になるが、相手の思い に耳を傾ける姿に近づいていけるといい。	安全面や危険性など考慮しながら、子どものやってみた い気持ちを大切にしてい。また、計画的に運動遊びも 行っていき、さらに普段とは違う動きや経験出来るよう にしてい
		自分の思いを表現したり相手の思いをきいたり 共感したりしながら、遊ぶ経験を積み重ねてい る	自分の思いを保育者や友達に伝えることはできるようになった。しかしまだ相手 の思いに耳を傾けることができず、自分の思いを通そうとする姿も見られる。	B A36% B60% C4%	B		保育の中で、受容や応答的な関わりを意識し、子どもが “自分の思いを聞いてもらえる”という経験から、相手 の思いに耳を傾けられるような姿を目指してい
		わからないこと、疑問に思ったことを友達や保 育者と一緒に調べ、考えたり試したりしながら 遊びを楽しんでいる	疑問に思ったことを、保育者や友達に聞いたり自分で調べるようになってい る。保育者も答えを伝えるのではなく、一緒に試したり遊んだりしながら気づきき っかけを作るように心がけている	B A38% B62%	A		環境として、いろいろなものやことに自ら学べる・興味をもって 調べる雰囲気作りをしていく。保育者も一緒に考えたり「なん で?」「どうして?」としかけたりたりしてい

II 各領域に関わること

大項目	中項目				関係者評価		
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの発達や経験等の差を十分に把握し、適切な援助を行っている	学年ごとの最終目標に向け、適切な援助を行いつつ、個々の経験の差に応じ、皆に同じことを求めず、一人一人に合った関わりをしている	B A48% B48% C4%	A	・個々に応じて、学年も違って適切な援助というのは、学年が一緒だったらみんな同じというわけにはいかになく、先生方の満足度が半々というのもよく分かる。 ・アレルギー対応も一人一人の子をよく見て、保護者に対しても気を使って対応してくれている。 ・“子どもの遊びを読み取る”ことは、本当に難しいと思う。これを完璧にすることは難しいと思うが、先生方が改善の余地があるというのであれば、B評価でよい。 ・子どもの遊びを見取る力については、それまで 点と点で見ていた子どものあらわれが一つの線とつながって、成育歴や家庭環境もひっくるめて、「この子の行動は〇〇からきている」と見つけた時大人は嬉しい。その子が次に何をやってもすべてつながっているから、いいとか悪いではなく、その子らしさとして捉えられる。そう思える先生が、一人でも増えた時、この項目が出来たと思える。また、力がついたらと捉えられるのだろうと思う。その子らしさとして捉えられるようになると、子どもを見る目はもっともっと寛大になり、目先のことではなく、ストレスにもならないし、笑えてきたりもする。そういう感覚で子どもを見てほしい。	子どもの発達や経験等の差を十分に考慮し、個に応じた援助や関わりを引き続き丁寧に行う。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや生活リズムを大切にし、安心した気持ちで園生活が送れるようにしている	朝の受け入れの際の視診、アレルギー児の対応・配慮・熱性けいれんのある子の対応など、朝の受け入れから一人一人に合った配慮を行い、体調の変化に気を付けてきた。子ども一人ひとりの生活リズムを大切にしながら背景にある家庭環境も考慮して支えている	A A68% B32%	A		登園時刻にバラつきがあったり、休みがちだったりする子への配慮や受け入れの際に得た情報の共有をしっかりと行っていく。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	四季折々の素材が用意され、子どもの思いがかなう様な環境が整えられている	子ども達の日常の遊びの展開を視野に入れ、季節を意識し、興味・関心を持てるように環境を整えてきた。“子どもの思いが叶う”や“とことん楽しむ”といったところまで出来ていたかという、子どもの遊びをみとる力が必要で課題が残る	B A48% B52%	B		気候が変動し、「四季」をあまり感じられなくなりつつある中で、行事や自然物を通して四季を感じることを大切にしたい。自然物は気候によって変化が見られるので、固定概念に捉われず、保育者が一緒に四季を感じて楽しんで行きたい。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な想定の実施し、その都度課題を出し検討し次に活かしている	大災害や不審者対応、非日常の事態にどう行動するか、考えられる訓練を行い、一人一人が自分ごとと思えるようになるには、どのような訓練が必要か試行錯誤してきた。“予測できない事態に備える訓練”ということを職員・子どもと共に伝えていくことで、意識が変わってきている	A A60% B40%	A	・安全管理のところで、前回、津波訓練で「まだ年長組しか上に上がったことがないから、他の学年もやっていきたい」と言っていたが、その後、すぐにやって下さったということで、すごいなと思った。 ・アンケートの手洗いの意見では、子どもの言うことを保護者が聞いた時、その情報が嘘ではないと思うが、誰の責任ということではなく、手洗いが出来ていないのであれば、出来るようにするのがいい。家庭と園の両方でできたらいいと思う。 ・特別支援教育を受けることについて、保護者の中には理解できない人や認めたくない人がいる中で、園として促すことの難しさがあると思う。気になるお子さんが普通級に進むことを希望された場合、2年3年から特別支援学級にやっと通わせるという方も多くなっている。支援学級とは、2～30年前はできない子・どうしようもない子が送られる、入れられるというイメージが強かったが、だいぶ払拭されてきて「特別な支援を受けられる、特別なサービス。」ということがだいぶ浸透してきた。ハンディが少なくなつて、学校側も自信を持って「支援を受けた方がはるかに伸びます」と伝える様になっている。 ・職員全員が揃うことがなく、分掌もバラバラな中で難しいところだと思う。実際目に見えてやれるものを掲げると、出来たか出来ないかがわかりやすく、ああやれたという実感がもてるのではないと思う。 ・先生方一人一人が子どもの特徴を捉え、保育者同士で連携をとってくれていると思う。 ・大人にとってはごみの様なものでも、子どもはそれをととても大事にして遊んでいる。そういう姿がいいなと思う。	「指示に従う」訓練から「自分で考える」訓練に変わっている。振り返りの中で、共有することが大切で、各々が様々な視点を持って声を出し合っていきたい。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗いうがいなどの保健指導を行い、健康に過ごすための基本的生活習慣が身につけている	子どもに分かりやすい言葉で、手洗いの大切さを伝えてきた。絵本や紙芝居を活用しながら健康教育を行っているが、ハンカチを身につけておくことの継続的な声掛けが必要である	B A44% B56%	B		ハンカチの持参や手洗い、うがいなどの基本的生活習慣について、保護者アンケートからこども園だけでなく保護者とともに意識していかなければいけないことを実感した。子どもだけでなく、保護者へのアピールと伝え方を考えていく必要がある。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	関係機関と連携をとり、子ども一人一人にあった支援をしていくために、職員間でも情報共有している	療育機関と訪問指導やSSTを通して、別の視点から支援のアプローチをしたり、互いに情報の共有をしながら個々に合わせた支援を児童、保護者に行うことが出来ている	A A52% B48%	A		幼児組担当や加配担当は、療育機関と関わり理解を深めている。自園の強みでもあるピーチサロンやパンダの会についての具体的な取り組みや支援の方法・ケース会議などにより詳しく共有していきたい。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	全職員が報・連・相を意識し、伝達し合ったり子どもの姿を語り合って共有し保育を進めている	全職員が自分の分掌に責任を持ち進めたり、クラス内や園内研修で、子どもの姿や思いを語り合ったりして、保育している。園内研修での内容は、研修通信を発行し、公開保育に参加できていない職員にも伝え、共有している	B A28% B64% C8%	B		伝達ミスや伝達漏れが信頼を損ねるので、口頭での伝達やクラスファイルなどへの記入を通し、情報共有に努めていく。また、乳・幼児会議について、お互いに一人ずつが参加し、情報共有していく。
6 研 修	(1)研修体制の充実	公開保育での子ども姿や思いを話し合ってい き、園内研修での内容が、全職員で共通認識 している	事前研では、年齢による発達を捉えたうえで子どもの様子を共有し、視点を絞って公開保育を行っていった。担任が保育の中で気づけなかった子どもの姿や思いなどを伝え合うことで、子どもたちの「好き」や「ワクワク」をたくさん見つけことができた。事後研で見えてきた成果と課題を研修日より全職員に発信していった。共通認識することで、職員が同じ方向を向き、連携をとりながら今の子どもの姿に合った環境を整える意識をもって保育している。	B A44% B56%	A		保育に係るすべての職員に研修通信を配布し、公開保育に参加できなかった職員も、公開保育を通した子どもの姿や公開保育からの学びを共有することを引き続き行っていく。毎週水曜日の「子どもの姿を語り合う」ことも継続していきたい。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもがとことん好きを楽しめるような素材・教材など環境を整えている	各クラス子どものつぶやきや発達から素材や教材を用意し、自らあそべるように環境を整えているが、物を大切にしたり、もっとあそびたいと明日につながりできる環境を今後もっと整えていく	B A42% B58%	A		子どもの遊びの姿を予想したり、願う子どもの姿から環境や素材を準備したりすることは大事だが、それ以前に保育者がその遊びからのバリエーションや楽しさを見出す必要がある。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	参加会や行事に参加してもらい、子どもの成長や育ちを共有できるように、コミュニケーションを図っている	送迎時に保護者とコミュニケーションをとったり、玄関にドキュメンテーションでクラスの様子を掲示したりして、子どもの姿や成長を伝えてい。また、面談をしたり、保育参加会で実際の様子を見てもらったりしながら、保護者の悩みに傾聴し、共に考えている。自己評価ではA評価であったが、保護者アンケートから、園での活動が伝わっていない部分があると思われる為、今後保護者への伝え方・表示の仕方に課題が残る	A A60% B40%	A		毎月のドキュメンテーションを作ってきた中で、活動の様子や成長を写真を通して伝えていたつもりでいたが、保護者への伝え方について、検討が必要。また、連絡帳やおたよりはコードモンでの配信となり、文字数の制限があったり、レイアウトも決まっていたりするため、利点を知って上手く活用する必要があると感じる。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣の園や学校と公開保育や授業参観などに職員が参加し合い、連携を図っている	小学校の協力の下、年長児は授業の中でのお店屋さんごっこ参加や5年生との交流等、昨年とは違った経験をさせてもらった。また、近隣園との交流や長田地区の5歳児交流の中で、「楽しかった」という思いを強く感じたことで「（今度は）〇〇したい」「〇〇して楽しませたい」という思いに変わっていった。園内だけでなく近隣園や学校の方々との交流もさらに何ができるのか探っていきたい	A A56% B44%	A		小学校との連携や近隣園との交流を通し、年長児が小学校に向けて円滑なスタートを実現することができないのではないと思う。5歳児交流や近隣園との交流を、さらに年中児も…と考えているが、保育の負担と考えることがないようにしていきたい。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	ふれあいサロンやおしゃべりサロンに参加し、地域の方々と交流を持ち、親しまれる園づくりに努めている	ふれあいサロンやおしゃべりサロン等、園外の方と接する機会、おじいさんおばあさん、年下の子に歌やダンスを見せてあげようという意識の下、地域の方と触れ合う機会がもてた	A A64% B32% C4%	A		近隣住民との関わりが少なくなっている昨今、園児が様々な人との関わりをもつ場を確保するために、引き続き地域の行事に参加したり、人とのかかわり、社会で必要なマナーや相手を気遣う態度、心温まるやりとりなどを経験できるようにしてい。